

令和6年5月8日（水）、JAとうとは土岐市駄知町の酒井勇様の田園にて「土岐市立駄知小学校 田植え体験」を開催した。駄知小学校5年生の児童55名が参加し、JAとうと経済部職員2名、駄知支店長、新入職員4名、地域の方2名が応援に駆け付けた。

同JAは、積極的に食農教育活動に取り組んでおり、田んぼの役割を学ぶ出前授業等も行っている。田植え体験学習では、子ども達に手作業での田植を体験してもらうことで、田植えの大変さや自然と触れ合う楽しさを実感してもらう為に、毎年実施している。

酒井勇氏は、「初めて田んぼに入る子もいると思いますが、頑張って田植に挑戦してください。」とあいさつした。酒井勇氏から苗の持ち方や植え方等の説明を受けた後、JAとうと職員の手助けを受け、苗を3～5本ずつ取り、泥の感触にはしゃぎながら丁寧に植えた。

児童らは「田んぼの泥で歩きづらかったが、気持ちよくて、田んぼの中の虫も沢山見ることができて楽しかった。」「植えるのが結構難しかったから、昔の人は大変だったと思いました。」など感想を述べた。

秋には、稲刈りを予定している。



5月15日JAとうとは、多治見市立根本小学校5年生62名に「田んぼの役割」についての体験授業を実施した。同JAは、地域の未来を担う子どもたちに対し、お米についての知識や田んぼがどのように私たちの暮らしの支えになっているか知ってもらうために食農教育の一環で出前授業を実施している。JAとうと経済部農業課の伊納係長、伊藤萌望、東濃農林事務所農業振興課の松久技術主査により、お米に関して〇×クイズや田んぼの役割について授業を行った。お米のクイズに対して子どもたちは、楽しく意欲的に取り組む姿や、テキストでの説明をしている時も真剣に田んぼについて学んでいる姿勢が見られた。バケツ稲キットを配布し、この授業をふまえてバケツ稲づくりに挑戦する。



令和6年5月30日（木）JAとうとは瑞浪市稲津町の西尾様の田園にて「瑞浪市立稲津小学校 田植え体験」を開催した。稲津小学校5年生の児童38名が参加し、JAとうとと経済部職員4名、稲津支店の藤城支店長、東濃農林事務所の松久技術主査、稲津公民館長の正村さん、地域ボランティアの中山さん、保護者の方らが応援に駆けつけた。

同JAは、積極的に食農教育活動に取り組んでおり、田んぼの役割を教える出前授業を行っている。田植え体験学習では、子ども達に手作業での田植えを体験してもらうことで、田植えの大変さや、「食」を育てる楽しさを実感してもらうために実施している。

田んぼまで小学校から徒歩で階段を下ってきて、作業の準備を行う。始めの会を行い、説明を受けた後にクラス別に田んぼに入り、すべて手作業で苗を植えた。初めて入る泥の感触を楽しみながら、自分たちの手でひとつひとつ一生懸命植えた。

児童らは「初めて田んぼに入ったけど、頑張って植えることができた。」「作業するたびに苗を植えるのが楽しくなっていく。」など感想を述べた。植えた苗が成長してきた秋頃には、稲刈り体験を予定している。

